

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	18	シビックプライドの醸成	横浜市
アイデア名 (公開)	ローカルポイントカードの導入（地域諸活動の活性化）とイベントの活性化		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	関東学院大学経済学部中泉ゼミナール 2 年 C チーム		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム	<input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム	<input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
代表者情報	氏名 (公開)	沼田 昂宏	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明 (公開)

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア (公共サービス) のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容 (公開)

アイデアは、だれがする、何を、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。(必要に応じて図表を入れても構いません)

1.ローカルポイントカードの導入

- 1).横浜市民に対して、市内の加盟店、公共施設等で利用可能なローカルポイントカードを配布し、地元経済を活性化し、市民の他県への流出を防ぐ。
- 2).横浜市あるいは神奈川県を基盤とする企業と提携を行い、企業アピールやプロモーションへの活用、サービス内容の充実を図る。

①ポイントカードについて

- ・カードは利用を希望する人々（主に横浜市民を想定）に対し、登録した上で配布する。
- ・登録には年齢、性別、住所の記入を条件とする。（利用規約に組み込む）
- ・ポイントには有効期限を設け、比較的短期間で経済の活性化を狙う。
- ・カードの利用によって得られるビッグデータを、他の活動に於いても利用できるようにする。

②ポイントについて

- ・ポイントは加盟店での買い物、公共施設（スポーツセンター等）の使用、地元開催のイベントへの参加、横浜市に継続して住み続けること（1年毎）で貯まるようにする。
- ・ポイントは買い物をする合計額の10%、施設の利用、イベントへの参加では1回毎に固定値が獲得できるものとする。
- ・貯まったポイントは商品券や旅行券（県内の宿泊施設限定）、地元の特産品との引き換えに利用できるものとする。

2.イベント活動の活性化

- ・イベントを活性化させ、経済活動の増進や地元の魅力再発見に繋げる。その際、上記のポイントカードの活用によるイベント参加人口の増加を狙う。
- ・イベントへの参加によってもポイントを獲得できるものとする。
 - 参加費が無料のものは一回ごとの固定値、参加費のかかるものは費用の10%のポイント
- ・プロスポーツ間交流（野球、サッカー、バスケットボール等）によるスポーツの普及と知名度の向上を狙う。→特定のスポーツを観戦することで他のスポーツの観戦チケットが割引になる
- ・スポーツイベント参加人口の増加と健康促進を目指す。
 - 毎日のラジオ体操の復活
 - スポーツへの参加を通じて市民全体の健康増進につなげる。

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の 2 ページの欄内におさまるようお願いします。

○横浜市の人口は現在も増加してはいるが、増加総数は年々減少しており、特に自然増加人口が大きい。

- ・平成 27 年中の横浜市の人口増加数 7 0 4 7 人
- 内訳 社会増加数 6 8 5 2 人（昨年比 7 2 4 人減）
- 自然増加数 1 9 5 人（昨年比 4 1 8 人減）

参考：横浜市統計ポータルサイト>最新の人口動態と年齢別人口インデックス>人口動態と年齢別人口

<http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/dotai/new/index-j.html>

そこで、将来的な人口増加に繋がる若者や子育て世代の増加、流出防止を狙い、行政サービスや生活利便性向上、地元産業活性化を図るためにローカルポイントカードの導入を提案した。

○ポイントカード導入によるメリットとしては、

- ・顧客の囲い込み
- ・来店促進
- ・客単価アップ
- ・顧客満足度対策
- ・競合店対策
- ・優良顧客の選別
- ・顧客属性の把握

等が挙げられ、地元商店街の活性化や、経済活動の促進につながるのではないかと考えた。

参考 URL：クラウドワークス>知っておきたい！ポイントカードを導入するメリット 7 つ

<https://crowdworks.jp/public/jobs/category/90/articles/8456>

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

1. 地元商店、及び有力企業に対する説明会を開き、協力と参加を呼び掛ける。
2. 市民に対する企画説明と告知活動
3. ポイントカード導入のための資金調達（可能であれば市の予算も活用する）
4. ポイントカードの登録、配布開始

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で〇〇ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

制約・課題について

- ・新規性が乏しい
- ・全国チェーンの商店、スーパーマーケットへの対応
- ・導入に必要な経費が高額になる可能性がある

ポイントカード導入費の一例



参考：スマートメンバー→リライト式の導入費が高くて手が出ない

http://smartmember.jp/?page_id=148

- ・地元商店街の閉店が相次いでおり、十分な数の加盟店を確保できるのか
- ・そもそも地元商店や企業、住民から理解が得られるのか
- ・横浜市の特徴を上手く打ち出せるのかどうか